

論文番号 33

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名(原題/訳)

Risk factors for the incidence of hyperuricaemia: a 6-year longitudinal study of middle-aged Japanese men

高尿酸血症罹患の危険因子：中壮年の日本人男性における、6年間の縦断研究
執筆者

Noriyuki Nakanishi, Kozo Tatara, Koji Nakamura, Kenji Suzuki

掲載誌(番号又は発行年月日)

International Journal of Epidemiology 1999; 28(5): 888-893

キーワード

Hyperuricaemia, incidence, risk factors, longitudinal study, Japanese men, middle age

高尿酸血症、罹患、危険因子、縦断研究、日本人男性、中壮年(30~54歳)

要旨

目的

血清尿酸(SUA)が増加する決定要因を縦断研究で明らかにしたものは少ない。

方法

血清尿酸値が7.5ng/dl未満で高尿酸血症の治療をうけておらず、また既往歴もない30~54歳の男性勤労者1,445名を6年間追跡した。途中で高尿酸血症症状が見つかった者や治療を開始した者は対象外から除外した。

結果

6年後に、高血圧症、糖尿病、腎不全のいずれの治療をも受けていない1,365名を解析対象とした。重回帰分析を用いて、高尿酸血症の発症を従属変数におき、肥満度、平均血圧値、トリグリセライド、飲酒量、喫煙習慣を独立変数で相対危険度を解析した。結果、

肥満度；2ボディマスインデックス上がる毎に、ハザード比は1.13(95%CI:1.02-1.26)。

平均血圧値；5mmHg上がる毎に、1.07(95%CI:1.00-1.13)。

トリグリセライド；10mg/dl上がる毎に、2.21(95%CI:1.12-4.37)。

飲酒量；飲まない群に対して、一日に46.0g以上の純アルコール摂取群では、2.33(95%CI:1.55-3.50)。

喫煙習慣；非喫煙群に対して、喫煙群は0.65(95%CI:0.46-0.92)。

以下のものは有意差が境界であった。

年齢；5歳上がる毎に0.89(95%CI:0.78-1.00)。

HbA1c；0.5%上昇する毎に0.89(95%CI:0.78-1.00)。

結論

30歳から54歳の日本男性において、肥満、高血圧、高トリグリセライド、多量飲酒は高尿酸血症になる一因であることが分かった。また、喫煙習慣、HbA1cは負の関連があることが分かった。